

自閉症児の歯科診療における支援の在り方に関する研究

— 歯科診療用サポートブックの作成と評価 —

山田 教子*・武蔵 博文

(2005年8月30日受理)

A Study of Supports in Dentistry Medical Care for Autistic Children

: Making and Evaluation of a Support Book for Dentistry Medical Care

Noriko YAMADA and Hirofumi MUSASHI

キーワード：自閉症児，歯科診療，サポートブック

Keywords : autistic children, dentistry medical care, support book

はじめに

障害児は，歯科への通院や診療の必要性，診療内容などを理解することが難しい。特に知的障害の程度が重度である場合や，自閉症や自閉的傾向がみられる場合に，強い抵抗や拒否反応がみられることがある。山田，武蔵（2004）は，富山県内の障害児を対象として歯科診療に関する調査を行った。その結果，自閉症児が他の障害児に比べ，歯科診療が難しいことが明らかになった。歯医者に行くと言っただけで拒否する，歯科医院の前で拒否をするなど，通院時から困難な点があった。待合室や診察室においても不適切な行動が多く見られ，診察時には約62%が抵抗や拒否反応を示していた。さらに保護者は，歯科医療側の対応が診察時の子どもに影響があると考え，障害に応じた診療や対応を強く望んでいることも示された。

洪井，荒木，原，今村，醍醐，荒井（1997）は，一般開業歯科医師を対象とし，障害者の患者の受け入れについてのアンケート調査を行った。一般の開業歯科医院では，言葉によるコミュニケーションがとれなかったり，診療時の姿勢の保持が困難であったりする障害者を引き受けにくい傾向があると述べている。コミュニケーションがとれ，歯科医師の指示に従うことのできる患者は，障害や年齢，診療内容を気にかけず引き受ける傾向が見られ，歯科診療において，コミュニケーションの重要性が示された。

現在，教育の現場では，援助の仕方は障害を持つ子どもの行動に大きく影響を与えると捉えられている。周囲の不適切なかかわり方が不適切な行動を増やすのではないかと考えられ，援助の仕方やあり方が再確認されている（平澤，藤原，山本，佐田，織田，2003）。特に，

コミュニケーションをとることが難しいとされている自閉症児を援助するときは，自閉症児にかかわる周囲が障害を理解し，適切にかかわることがとても重要である。山田，武蔵（2004）の実態調査の中でも，歯科医療側の障害への理解と障害に応じた対応について，保護者からの要望が大変多く見られた。これは，保護者と医療側の意思疎通の少なさと信頼関係の不足が，原因の一つになっているのではないかと考えられる。診察時の限られた短い時間の中で，患者である自閉症児の障害について保護者が口頭で説明し，医師の理解を得ることは難しいと思われる。

自閉症児の障害や特性を，周囲のかかわる者，支援者に伝えて，理解を深めて関わりをもってもらう方法にサポートブックがある。サポートブックとは，障害のある子どもを持つ親が，子どもを理解してもらうための有効な方法の一つである（ホームページ「自閉症ノブの世界」）。初めて接する人でもこれを読むと，コミュニケーションをとることが苦手な障害を持つ人のことを理解して接することができるように，様々な情報が記されている。坂井（2002）は，サポートブックは，子ども一人一人に役立つものであると同時に，ボランティアの人にも安心を与え，親にもゆとりを生み出す優れたものであると述べている。

このようなサポートブックは，障害者についての共通理解を図る上で，利用範囲が広く有効である。人とのかかわり方が特に困難である自閉症児の歯科診療のために役立てられるのではないかと予測される。診察前に，子どもの障害や特性など，一般の問診票からは得られない情報を事前に伝えることで，歯科医師や歯科衛生士が自閉症児とのコミュニケーションのきっかけをつかめるのではないかと，診療環境を整え，診療手順や内容を自閉症

* 富山県となみ養護学校教諭

児が理解できるように伝えることが、診察の動機づけや診療をスムーズに進めることにつながるのではないかと考える。

しかし、保護者が実際にサポートブックを作ろうとすると、どのような内容を選んだらよいか、どのような書き方が誤解なく伝わるか、作ったサポートブックをどのように使ったらよいかなど、戸惑うことが多いと思われる。武蔵(2005)は、障害のある子どもの保護者を対象に、サポートブック作成教室を開き、保護者とともにサポートブックを作成した。その結果、自閉症児の子どもを理解し援助する方法の一つとして、サポートブックの有効性が示されたと述べている。さらに活用するには、子ども本来の行動や姿がわかる記述に努めること、支援者により必要とする情報が異なるので、伝える内容とその量を調整する工夫が考えられることなどを指摘している。

本研究では、歯科医療機関において、自閉症児の歯科診療時に役に立つサポートブックを作成することを目的とする。実際に医療現場で使えるかどうか、歯科医師や歯科衛生士が役に立つかどうか、サポートブックの内容や記述の仕方、情報量などを検討する。本研究は、作成評価Ⅰと作成評価Ⅱの2部から構成される。

作成評価Ⅰでは、対象事例2名の歯科診療に関する項目内容を記述した歯科診療用サポートブックの試行版を作成し、歯科医師、歯科衛生士による項目内容の選定、情報量、記述の仕方の評価をアンケート調査する。

作成評価Ⅱでは、作成評価Ⅰのアンケート調査結果を基に、作成評価Ⅰの対象事例2名に、さらに2名を加え、計4名の歯科診療用サポートブックを再作成する。4名それぞれの歯科受診時に、担当の歯科医師、歯科衛生士によって実際に使用后、記述の仕方、形式などの評価をアンケート調査する。

作成評価Ⅰ

1. 目的

歯科診療用のサポートブックを作成するために、実際に歯科医療機関で目を通すことができると思われる時間や提示の仕方、歯科医師や歯科衛生士が必要としている項目の選定、記述の仕方などを明らかにすることである。

2. 方法

(1) 対象者

対象者は、富山県内の歯科医院に勤務している歯科医師24名、歯科衛生士27名、計51名である。対象者の中には、対象事例であるA児担当の歯科医師1名、歯科衛生士2名、B児担当の歯科医師1名、歯科衛生士2名を含んでいる。

(2) 対象事例

対象事例は、富山県内のT養護学校に在籍する自閉症

児A児、B児の2名である。

A児は、自閉的傾向を併せもつ知的障害の小学部の男児である。これまでのむし歯の治療時に、歯科への通院や診療に強い拒否反応を示した。日頃の歯みがきを嫌がったりすることから、むし歯予防としてフッ素塗布をするために、一般の個人歯科医院へ通院している。しかし、強い拒否反応が見られ、歯科医師や歯科衛生士が対応に困っており、母親もどうしたらよいか悩んでいる状態であった。

B児は、知的障害を伴う自閉症の小学部の男児である。菓子への強いこだわりなどの食生活の乱れと、草や土、虫などを口に入れる異食が見られる。個人歯科医院を受診したが、激しい抵抗や拒否反応を示し、診察を断られた。歯科センターを紹介され、現在も通院している。しかし、診療時に激しく泣き暴れ、歯科センターを抜け出すなど、様々な問題があり、母親から大変困っているとの相談を受けた。

(3) サポートブックの項目内容の選定

歯科診療用サポートブック試行版の項目内容は、以下を参考にした。46項目からなる。詳細を表1に示す。

表1 サポートブック試行版の項目

プロフィールに ついて(10項目)	①学校名・学年, ②呼び名・愛称, ③生年月日・年齢・血液型, ④住所・両親の連絡先, ⑤歯科までの通院時間・利用交通機関, ⑥サポートブックの説明, ⑦障害名, ⑧服薬中の薬名, ⑨かかりつけの病院・主治医, ⑩療育手帳の種類
障害について (6項目)	①本人の障害特性の説明, ②好きなこと・好きな物, ③嫌いなこと・嫌いな物, ④癖・こだわりについて, ⑤辛く感じることに ついて, ⑥パニックやもしものときの対応の 仕方
コミュニケーション について(10 項目)	①言葉でのやりとり, ②してはいけないこ との伝え方, ③絵や写真の理解, ④文字 の理解, ⑤順番やスケジュールの理解, ⑥YES・NOの表現, ⑦自己選択, ⑧注意 を促すとき, ⑨ほめられることについて, ⑩ごほうびについて
歯科関係につい て(19項目)	①学校での歯科検診の様子, ②今までの通 院の様子, ③待合室での様子, ④診察時の 様子, ⑤痛みについて, ⑥座っているこ とができる時間, ⑦口を開けることについて, ⑧うがい, ⑨顔に触れられることについて, ⑩手を握られることについて, ⑪白衣・マ スク姿について, ⑫診療の機械の音, ⑬他 の患者の泣き声, ⑭薬品のおい, ⑮時計 の理解, ⑯終わりの理解, ⑰鏡に映る姿の 理解について, ⑱歯ブラシへの抵抗感, ⑲ 介助磨きについて
自閉症について	茂木(1998)による「障害を知る本⑦自閉 症のこどもたち」の「3つの診断基準」か ら引用

自閉症児の歯科診療における支援

ホームページ「みずのおうち」、ホームページ「ノブの世界」、T養護学校保護者作成のサポートブックから自閉症児の情報を与える家庭側の項目を抽出した。

「問診表」(A小児歯科医院)、「問診表」(S小児歯科医院)、「問診表」(T歯科医院)、「問診表」(T総合病院)、「歯磨き指導診査用紙」「予診録」(富山県歯科保健医療総合センター)から自閉症児の情報を求める歯科医療側の項目を抽出した。

(4) 対象事例のサポートブックの作成

項目を選定後、対象事例A児、B児の歯科に関する実態を各担任教諭から聞き取りし、学校歯科検診時の様子などを観察した。また、母親に家庭での口腔衛生についての状況や、これまでの歯科医院への通院の様子、予想される問題点などの聞き取り調査を行った。

その後、サポートブックの試行版を作成し、連絡帳を通じて家庭で見直しや確認してもらった。家庭と学校の歯科に関する実態やコミュニケーションについての実態の共通理解を図りながら作成を行った。

作成の期間は、平成X年4月上旬から6月下旬の約3ヶ月間である。

(5) サポートブックの評価

富山県歯科医療総合保健センター、富山県内の一般個人歯科(7件)、総合病院歯科・口腔歯科(2件)のそれぞれの歯科医師、歯科衛生士にアンケート用紙を配布し、歯科診療用サポートブック(A児、B児の2名)を見ながら回答をしてもらい、回収を行った。

評価の期間は、平成X年7月上旬から8月下旬までの約2ヶ月間である。

(6) 評価アンケートについて

評価アンケート「サポートブック作成のためのアンケート」の内容は、自閉症の診察や診療経験の状況、サポートブックを見た経験の有無、歯科診療用サポートブックの項目の選定からなる。アンケート用紙を資料1に示す。

調査項目は全21項目である。そのうち、Q1からQ8までは「はい・いいえ」より回答を求めた。Q9からQ13、Q18、Q20は五件法による選択とした。Q14からQ17は選択肢から複数回答可で回答を求めた。選択する項目数は、選択肢の半数程度とした。Q19とQ21は記述による回答を求めた。なお、選択による回答について、その理由を記述する記述欄を設けた。

Q1～Q3の3項目では、歯科医師や歯科衛生士が、自閉症について知っているかどうか、診察経験の有無、負担に感じるかどうかなど、これまでの自閉症児の診察や診療状況の把握を目的とした。

Q4～Q6の3項目では、サポートブックの存在を知っているかどうか、見たことがあるかないか、使用したことがあるかなど、今までのサポートブックについての実態把握を目的とした。

Q7～9の3項目では、診察時にサポートブックを見

ることができるかどうか、診察前に見ることができるかどうか、診療に役立つと思うかどうかなど、今後のサポートブックについての考えの把握を目的とした。

Q10～Q13の4項目では、内容、読みやすさ、情報量など、歯科診療用サポートブックに実際に目を通した全体についての印象の把握を目的とした。

Q14～Q19の6項目では、プロフィール、障害、コミュニケーション、歯科関係、自閉症についての説明など、歯科診療用サポートブックの項目ごとに、役に立つ、必要であると感じた項目を選択し、他の必要な情報は何かを知ることを目的とした。

Q20では、歯科診療用サポートブックが有効かどうか、Q21では、サポートブックに目を通す時間としてかけてもいい時間を知ることを目的とした。

3. 結果**(1) 作成したサポートブック**

作成した歯科診療用サポートブック試行版の例を資料3に示す。

(2) 評価アンケートの結果

アンケート用紙の配布数、回収数は51名であり、回収率は100%であった。なお、項目それぞれについて有効回答を求めた。

Q1 自閉症という障害をご存じですか？

有効回答は51名であった。結果は、「はい」が96%(49名)、「いいえ」が4%(2名)だった。

「いいえ」と答えた2名は、一般個人歯科に勤務する歯科衛生士である。「はい」と答えた中にも、「聞いたことや本を読んだりしたことはあるだけ」という記述もあった。なお、アンケートの対象となった医師や歯科衛生士が勤務する歯科医院の約半数には、自閉症の患者が来院したことはほとんどないという報告であった。

Q2 自閉症の子どもを診察したことがありますか？

有効回答は51名であった。結果は、「はい」が67%(34名)、「いいえ」が33%(17名)だった。

富山県歯科保健医療総合センターに勤務する歯科医師、歯科衛生士は日常的に自閉症の子どもたちを診察している。また、一般個人歯科7件のうち1件でも、自閉症を含め、知的障害の子どもたちが来院し、診察を受けていた。

Q3 自閉症の子どもを診察、診療をすることは負担に感じますか？

有効回答は42名であった。結果は、「はい」が67%(28名)、「いいえ」が33%(14名)だった。無効回答が9名もあった。

「はい」と答えた約3分の2は、これまで自閉症の診察をしたことがある医師、歯科衛生士である。負担に感じないと答えた約半数は、これまで自閉症の診察をしたことがない医師、歯科衛生士であった。

Q 4 サポートブックの存在をご存じですか？

有効回答は51名であった。結果は、「はい」が8% (4名), 「いいえ」が92% (47名) だった。

Q 5 これまでに、サポートブックを見たことがありますか？

有効回答は51名であった。結果は、「はい」が8% (4名), 「いいえ」が92% (47名) だった。

「はい」と答えた4名は、上記Q 4の問いで「サポートブックの存在を知っている」と答えた4名と同じ歯科医師、歯科衛生士である。

Q 6 これまでに、実際にサポートブックを使ったことがありますか？

有効回答は50名であった。結果は、「いいえ」が100% (50名), 無効回答が1名だった。

無効回答の1名は、「はい」と答えていたが、どこで使ったかの問いに対しての回答が不十分だったため、無効回答とした。

Q 7 診察時にサポートブックを見ることはできると思いますか？

有効回答は50名であった。結果は、「はい」が80% (40名), 「いいえ」が20% (10名) だった。無効回答は1名だった。

「はい」と答えたのは、日頃自閉症を診察、診療している歯科医師や歯科衛生士が多い。その歯科医師や歯科衛生士も時間的な余裕があるわけではないが、サポートブックを見ることで、診察や診療を進めていく上で、有効ではないかと感じ、この結果につながっているのではないと思われる。

「はい」と答えた1名の歯科医師が、自分は見ることができないが、アシスタントに付く担当の歯科衛生士が見ることができると答えていた。

「いいえ」と答えた理由としては、診察時には時間がないが多くあげられた。

Q 8 診察前にサポートブックを見ることはできると思いますか？

有効回答は51名であった。結果は、「はい」が96% (49名), 「いいえ」が4% (2名) だった。

Q 9 サポートブックは診療に役立つと思いますか？

有効回答は51名であった。結果は、「1 とても役に立つ」が64% (33名), 「2 やや役に立つ」が24% (12名), 「3 どちらでもない」が6% (3名), 「4 あまり役に立たない」が4% (2名), 「5 全く役に立たない」が2% (1名) だった。

Q 10 内容はどうでしたか？

有効回答は50名であった。結果は、「1 とてもわかりやすい」が32% (16名), 「2 まあまあわかりやすい」が48% (24名), 「3 どちらでもない」が16% (8名), 「4 少しわかりにくい」が2% (1名), 「5 とてもわかりにくい」が2% (1名), 無効回答が1名だった。

Q 11 読みやすさはどうでしたか？

有効回答は51名であった。結果は、「1 とても読みやすい」が39% (20名), 「2 まあまあ読みやすい」が35% (18名), 「3 どちらでもない」が18% (9名), 「4 少し読みにくい」が2% (1名), 「5 とても読みにくい」が6% (3名) だった。

Q 12 文字の大きさはどうでしたか？

有効回答は51名であった。結果は、「1 ちょうどよい」が53% (27名), 「2 まあまあよい」が25% (13名), 「3 どちらでもない」が14% (7名), 「4 少し読みにくい」が2% (1名), 「5 とても読みにくい」が6% (3名) だった。

「妥当ではない」と答えた4名のうち、3名が「文字が大きすぎる」と答えていた。

Q 13 情報量(ページ数)はどうでしたか？

有効回答は51名であった。結果は、「1 ちょうどよい」が20% (10名), 「2 まあまあよい」が18% (9名), 「3 どちらでもない」が29% (15名), 「4 少し多い, 少ない」が25% (13名), 「5 多すぎる, 少なすぎる」が8% (4名) だった。

「妥当ではない」と答えた17名のうち、10名が「多すぎる」と答えていた。Q21で、サポートブックに目を通す時間として、かけてもいいと思われる時間の回答を求めたところ、3分間と答えた医師、衛生士が大変多い。このことから、その場で確実に見て理解できる情報(項目)を選択しなければならぬことが分かった。

Q 14 プロフィールについて、役に立つと感じられた項目を5つ選び、お書き下さい。

回答総数は245であった。結果は、「②呼び名・愛称」「⑦障害名」が47名で最も多く、約9割に選択されていた。「⑧服薬中の薬名」が43名、「⑨かかりつけの病院」が38名で約7割に選択されていた。「③生年月日・年齢・血液型」が19名、「①学校名・学年」が17名、「⑥サポートブックの説明」が16名、「④住所・両親の連絡先」が10名、「⑤通院時間・利用交通機関」が5名だった。「⑩療育手帳の種類」が3名で最も少なかった。

無回答が10名だった。この理由として、「見る時間がないので3つしか必要ではない」「問診票と重なる内容はいらぬ」「すぐに必要なもののみを選択した」などの記述がされていた。

Q 15 障害について、役に立つと感じられた項目を3つ選び、お書き下さい。

回答総数は147であった。結果は、「⑥もしものときの対応の仕方」が41名で最も多く、「①本人の障害特性」も39名と、ともに約8割に選択されていた。「④癖・こだわりについて」が30名、「⑤辛く感じることに」が18名、「③嫌いなこと・嫌いな物」が13名だった。「②好きなこと・好きな物」が6名で最も少なかった。

無回答が6名だった。この理由も、「見る時間がないので2つしか必要ではない」「問診票と重なる内容はい

自閉症児の歯科診療における支援

らない」「すぐに必要なもののみを選択した」などの記述がされていた。

Q 16 コミュニケーションについて、役に立つと感じられた項目を5つ選び、お書き下さい。

回答総数は245であった。結果は、「⑥YES, NOの表現」が43名で最も多く、8割以上に選択されていた。「①言葉でのやりとり」が39名、「⑤順番やスケジュールの理解」が36名で、約7割に選択されていた。「⑧注意を促すとき」が31名、「②してはいけないことの伝え方」が29名、「⑨ほめられること」が21名、「③絵や写真の理解」が19名、「⑩ごほうびについて」が15名、「④文字の理解」が8名だった。「⑦自己選択」が4名で最も少なかった。

無回答が10名だった。この理由も、上記のQ14, Q15と同じである。

Q 17 歯科関係について、役に立つと感じられた項目を5つ選び、お書き下さい。

回答総数は245であった。結果は、「②今までの通院の様子」が38名で最も多く、「④診察時の様子」も35名と、ともに約7割に選択されていた。「⑦口を開けること」が32名、「⑬歯ブラシへの抵抗感」が30名、「⑥座っている時間」が26名で、約半数に選択されていた。「⑤痛みについて」が17名、「⑨顔に触れられること」「⑫診療の機械の音」が11名、「⑧うがい」が9名、「③待合室での様子」が8名、「⑩介助磨きについて」が6名、「⑩手を握られること」「⑪白衣・マスク姿について」が5名、「①歯科検診の様子」が4名、「⑮時計の理解」「⑯終わりの理解」「⑰鏡に映る姿の理解について」が2名だった。「⑬他の患者の泣き声」「⑭薬品のにおい」がともに1名で最も少なかった。

選択された項目とされなかった項目が、大きく分かれた結果となった。

無回答が10名だった。この理由も、上記のQ14からQ16と同じである。

Q 18 障害（自閉症）についての説明について、1～5段階で一番近いと思われるものに○をつけてください。

有効回答は50名であった。結果は、「1 とても役に立つ」が44% (22名)、「2 やや役に立つ」が26% (13名)、「3 どちらでもない」が28% (14名)、「5 全く役に立たない」が2% (1名)だった。無回答が1名だった。

Q 20 自閉症の子どもたちの歯科診療をスムーズに行うために、診察前にサポートブックを見ることは有効だと思いますか？

有効回答は50名であった。結果は、「1 とても役に立つ」が62% (31名)、「2 やや役に立つ」が26% (13名)、「3 どちらでもない」が8% (4名)、「5 全く役に立たない」が4% (2名)だった。無回答が1名だった。

約8割が有効なものではないかと答えていた。しかし、項目の選定をし、情報量を少なくし、読んで理解できるものに作成し直すことが必要である。

Q 21 サポートブックに目を通す時間として、かけてもいいと思われる時間を分でお答え下さい。

有効回答は51名であった。「3分間」が55% (28名)で最も多かった。「5分間」が25% (13名)、「1分間」「2分間」が6% (3名)、「10分間」が4% (2名)だった。「6～7分間」「30分間」が2% (1名)で最も少なかった。

なお、「30分間」と答えた医師は、「事前に渡してもらい、診察前に見る時間を想定して。保護者との面接をする時間を考えると短いと思う。」と答えている。

4. 考察

(1) 自閉症の診察経験について

対象となった51名のうち、自閉症という障害を知っており、診察した経験があると回答した歯科医師、歯科衛生士は、67% (34名)であった。しかし、この回答者のほとんどは、保健所などでの歯科検診や研修した経験を回答したことを記述に添えていることから、自分が勤務したり開業したりしている歯科医院では、自閉症児を診察をしていないということが分かる。

西田(1989)は、一般個人歯科医は障害者を受け入れようにも、自分の診療室には障害者歯科に必要な設備もなく、また障害児をどのように診療すればよいかという研修や教育を受けていないため、診察・診療は難しい、無理だ、という考えが強いと述べている。実際に、アンケートに回答した歯科医師、歯科衛生士合わせて20名から、障害児の歯科診療の発展のために、研究(調査)の協力はするが、診察・診療の協力はできない、という言葉があった。

また、障害児の歯科診療は設備やスタッフがそろっている専門の医療機関(富山県であれば富山県歯科保健医療総合センター)へ行けばよいという考えであった。障害児の歯科受診は、福祉的な問題でもあり、一般個人歯科医にはあまり関係がなく、関心もたいへん低い医師も多いように思われた。

(2) サポートブックの存知について

サポートブックを知っているかどうかの問いで「はい」と答えた4名のうちの1名は、テレビドラマがきっかけとなっていた。しかし残念ながら、その他の歯科医師や歯科衛生士は、サポートブックの存在をほとんど知っていなかった。

富山県自閉症協会では、一昨年度から保護者を対象にして、サポートブック作りの教室を行っている。また、T養護学校では、学校に在籍する児童生徒全員にサポートブックを作成し、小・中学校との交流学习や校外学習などの機会に活用している。昨年の秋には、自閉症の男の子を主人公にしたテレビドラマ「光とともに」が放映され、サポートブックがドラマのストーリー中で取り上げられた。自閉症児の保護者だけでなく、あまり障害児とかかわりを持つ機会のない人々に、サポートブックの

存在が、今後、広まっていくことを期待したい。

(3) サポートブックの使用について

サポートブックがとても役に立つと回答した45名中の30名は、これまでに自閉症児の診察や治療をしたことがあり、自閉症児の診察や治療を負担に感じている歯科医師、歯科衛生士であった。サポートブックを見て子どもの実態がわかっているならば、診療が変わるかもしれないと考えたのではないと思われる。

自閉症児の診察や治療の経験のない歯科医師や歯科衛生士は、時間的な余裕はないが、サポートブックを見ることが、診察や診療を進めていく上で、役に立つのではないかと期待を込めて、役に立つと回答したのではないと思われる。

また、実際に歯科医療機関でサポートブックに目を通してよいと思われる時間については、対象者の半数が、3分間であると答えていた。診療時にサポートブックを見ることが負担に感じられることがないように、内容や項目を絞り、書式や記述の仕方を工夫しなくてはならないと思われる。

(4) サポートブックの内容項目について

項目については、全体的に見ると、保険証に記載されている項目や各歯科医院で記入している問診票、カルテなどに記載されている項目は、あまり必要とされていない。選択されていた項目は、日頃の様子や家庭の様子など、保護者から直接聞かなければ分からない項目であった。

プロフィールについての項目では、障害名や愛称、服薬中の薬、かかりつけの病院が多く選択されていたが、歯科衛生士より歯科医師の方に、より必要だと思われる傾向が見られた。歯科衛生士の回答には、ばらつきが見られた。

通院に関する項目は、ほとんど選択されなかった。山田、武蔵(2004)の実態調査では、自閉症児の保護者は、自閉症の見通しが持てないという特性へ配慮するために、予約時間を守り、待つ時間がないように配慮してほしいと望んでいた。歯科医療側と、家庭側の思いがずれていることが明らかになった。遠隔地から通院する自閉症児や保護者への配慮を歯科医療側に望みたい。

障害についての項目では、パニックの対応の仕方、障害特性、こだわりが多く選択されていた。自閉症児は、感覚過敏などの特徴を持っていることがあり、歯科診療時に及ぼす影響も大きく、また個人差も大きいので、歯科医師や歯科衛生士は必要性を感じているのではないと思われる。

コミュニケーションについての項目では、YES、NOの表現、言葉でのやりとり、順番の理解が多く選択されていた。この項目は全て、本人と時間をかけて関わりを持たないと、わからない内容である。診察や診療時にすぐに役に立つ項目が、選択されたと思われる。絵や写真の理解、文字の理解の項目は、あまり選択されてい

なかった。言葉などの聴覚的な情報よりも、絵や写真、文字などの視覚的な情報の方が、理解しやすいという自閉症児も多い。診察時の内容の説明をするために、歯科医師や歯科衛生士に、ぜひ知っておいてほしい点である。歯科関係の項目では、通院の様子、これまでの診察時の様子、開口できる時間、座ることができる時間が多く選択されていた。これまでに自閉症児の診察や治療をしたことがあり、負担に感じている歯科医師、歯科衛生士に多かった。経験した上で選択していると思われ、必要な項目だと思われる。

歯科診療をスムーズに進めるためには、患者の協力が必要である。「口を開けて」「噛んでみてね」「舌を動かさないでね」など、医師の指示を受け入れながら、診療が行われる。どうやったら伝わるかよりも、何が分かり何が分からないかなど、医師や歯科衛生士が、見てすぐに理解できる項目が選択された。また、選択されなかった項目の一つに、自閉症の特性の一つとして、手や顔を触られるのが苦手という過敏性があげられるが、診療時に触れられ押しえられるのは必要なことでもあり、どうしようもないことだと思われているようである。

自閉症についての説明の項目は、これまでに自閉症児を診察・診療したことがない歯科医師や歯科衛生士からは、「とても役に立つ」と答えが得られた。経験のある歯科医師、歯科衛生士は、実際にかかわり、一人一人の子どもの実態の違いが大きく、あまり必要だと感じられないのかもしれない。

以上の結果から、歯科診療用のサポートブックは、約3分間で目を通すことができ、その間に読んで理解できる内容であること、記述の仕方は単語やはっきりとした文章(できる、できない、わかる、わからないがはっきり書かれている)であること、項目については自閉症の障害の特性が記載されている説明や対処の仕方など、診療時にすぐに役に立つことなどが条件であると言える。

作成評価Ⅱ

1. 目的

作成評価Ⅰの結果を基に、歯科診療用サポートブックを再作成し、作成したサポートブックを実際に歯科医療機関で使用後、診療時に有効であったかどうかを評価、検討することである。

2. 方法

(1) 対象者

対象者は、対象事例である自閉症児4名の担当歯科医師、担当歯科衛生士、計12名である。

(2) 対象事例

対象事例は、富山県内のT養護学校に在籍する自閉症児、A児、B児、C児、D児の計4名である。なお、A児とB児は、作成評価Ⅰと同じ児童である。

自閉症児の歯科診療における支援

C児は、重度の知的障害を伴う自閉症の小学部の男児である。不安感が強く、初めての人や場所が苦手である。一度、痛い、恐いなどの嫌な経験をするとずっと覚えており、歯科検診も苦手とする一つである。歯ブラシへの抵抗感が強く、介助磨きも苦手である。以前に歯科センターへ通院したが、治療だけでなく通院時にも激しい抵抗が見られ、治療が途中で中断されてしまった。口腔衛生管理を行い、歯科に慣れるためにも、定期的に歯科へ通院することが必要ではないかと思われ、母親も望んでいる。

D児は、知的障害を伴う自閉症の小学部の男児である。学校歯科検診において、多くのむし歯が発見され、早期の治療が必要となった。これまでは地元の一般個人歯科医院へ通院し、診療を行っていたが、診療椅子に動かないで座ったり、口を開けたりすることが難しく、拘束ネット（注）や開口器が必要であると思われる。今回、歯科センターへ通うことになり、初めての歯科医師や歯科衛生士とかかわることになった。

（3）サポートブック「デンタルサポートシート」の項目内容と形式

作成評価Ⅰの結果を基に、サポートブックの内容、記述の仕方、情報量などを検討し、サポートブックの再作成を行った。その際、歯科医療側から、3分間で見て理解できる情報量を載せ、使いこなすためには、A4版1枚の両面程度にならないかという提案があり、A5版ブック型からA4版シートに形態を変更し、「デンタルサポートシート」と名付けることとした。

歯科診療用サポートブック「デンタルサポートシート」の項目内容は、作成評価Ⅰの結果から項目を選定し、26項目からなる。

プロフィールや特徴などについての項目はブルーのシートに、コミュニケーションについての項目はイエローのシートに、歯科関係についての項目はグリーンのシート

表2 デンタルサポートシートの項目

プロフィールについて（6項目）	①呼び名・愛称、②生年月日・年齢・血液型、③障害名、④服薬中の薬名、⑤かかりつけの病院・主治医、⑥自閉症について
障害について（5項目）	①本人の特徴、②癖・こだわりについて、③辛く感じることに、④パニックやもしものときの対応の仕方（2つ）
コミュニケーションについて（6項目）	①絵や写真の理解、②言葉でのやりとり、③してはいけないことの伝え方、④順番やスケジュールの理解、⑤YES、NOの表現、⑥注意を促すとき、⑦ほめられることについて
歯科関係について（9項目）	①今までの通院の様子、②診察時の様子、③うがい、④座ることができる時間、⑤口を開けること、⑥顔に触れられること、⑦手を握られることについて、⑧歯ブラシへの抵抗感、⑨介助磨きについて

にし、色ごとに関連した項目をまとめた。

フォントはゴシック文字を用い、フォントサイズは、9ポイントから12ポイントで作成した。

（4）対象事例のサポートシートの作成

自閉症児4名の母親に、作成評価Ⅰの結果を説明し、記述の仕方などを吟味し直し、共通理解を図りながら、再作成した。

作成の期間は、平成X年9月上旬から10月下旬の約2ヶ月間である。

（5）サポートシートの評価

対象事例4名が、診療のために、富山県歯科医療総合センター（B児、C児、D児）、一般個人歯科（A児）を受診する当日に、デンタルサポートシートと、アンケート用紙を配布し、使用後に回答をしてもらい、回収を行った。対象事例4名それぞれの担当歯科医師、担当歯科衛生士がデンタルサポートシートを使用し、アンケートに回答している。

評価の期間は、平成X年11月上旬から12月上旬の約1ヶ月間である。

（6）評価アンケートについて

評価アンケートの内容は、デンタルサポートシートの内容と形式、使用しての評価である。アンケート用紙を資料2に示す。

評価項目は全12項目である。Q2とQ3は「はい・いいえ」より回答を求めた。Q4からQ8、Q10までは5件法による選択とした。Q9は記述により、Q1とQ12は数字を記入して回答するものである。なお、選択による回答について、その理由を記述する記述欄を設けた。

Q1～Q3の3項目は、診察時に見た時間、診察時や診察前に見ることができるかどうかの把握を目的とした。

Q4～Q9の6項目は、内容、読みやすさ、情報量など、デンタルサポートシートを使用しての評価の把握を目的とした。

Q10では診察への有効性、Q11では実態との一致度、Q12ではサポートシートそのものへの評価を目的とした。

3. 結果

（1）デンタルサポートシート

作成したデンタルサポートシートの例を資料4に示す。

（2）評価アンケートの結果

アンケート用紙の配布数、回収数は12名であり、回収率は100%であった。

Q1 本日の診察時間に（前後を含めて）「デンタルサポートシート」を見られた時間をお答え下さい。

結果は、「5分間」が75%（9名）、「1～2分間」が17%（2名）、「7分間」が8%（1名）だった。

3分間で見て理解できる情報量を目指したが、5分間かかっていた。「7分間」と回答した1名は、初診のS児に初めて接した歯科衛生士であった。「1～2分間」と回答した2名は、これまで何度かT児の診療に対応し

ている，T児担当の歯科衛生士であった。

Q 2 診察時に「デンタルサポートシート」を見ることはできると思いますか？

結果は、「はい」が92%（11名）、「いいえ」が8%（1名）だった。

「いいえ」と回答した1名は、その理由として「診察時は患者さん自身を見ることに集中しているのでやはり見ることは難しい」と記述していた。

Q 3 診察前に「デンタルサポートシート」を見ることはできると思いますか？

結果は、「はい」が12名で100%だった。

診察時でなく、診察前ならば、全員がデンタルサポートシートを見ることのできるという回答であった。

Q 4 診療に役立つと思いますか？

結果は、「1 とても役に立つ」が92%（11名）、「2 やや役に立つ」が8%（1名）だった。

Q 5 内容はどうでしたか？

結果は、「1 とてもわかりやすい」が75%（9名）、「2 まあまあわかりやすい」が25%（3名）だった。

「まあまあわかりやすい」と回答したのは、D児担当の歯科医師、歯科衛生士であった。まだ診療の回数が少なく、D児とかわかった時間が少ないため、デンタルサポートシートの項目と実態が、結びついていないのではないと思われる。

Q 6 読みやすさはどうでしたか？

結果は、「1 とても読みやすい」が75%（9名）、「2 まあまあ読みやすい」が8%（1名）、「3 どちらでもない」が17%（2名）だった。

Q 7 文字の大きさはどうでしたか？

結果は、「1 ちょうどよい」が84%（10名）、「2 まあまあよい」が8%（1名）、「3 どちらでもない」が8%（1名）だった。

Q 8 情報量はどうでしたか？

結果は、「1 ちょうどよい」が50%（6名）、「2 まあまあよい」が42%（5名）、「3 どちらでもない」が8%（1名）だった。

「ちょうどよい」と回答した6名中5名は、Q1の設定問において、デンタルサポートシートを見た時間を5分間であったと回答していた。

Q 9 載っていた情報以外で、特に必要と思われた情報はありましたか？もしあれば、具体的にお書き下さい。

結果は、1名が「薬のアレルギーの有無、自傷他傷の有無（ない場合もないことを明記してほしい）」と記述していた。

Q 10 自閉症児の歯科診療をスムーズに行うために、「デンタルサポートシート」を見ることは有効だと思いますか？

結果は、「1 とても有効である」が100%（12名）だった。

全員が、デンタルサポートシートは歯科診療に役に立

つ、有効であると感じたという回答であった。

Q 11 患者の実態と一致していたと思いますか？

結果は、「1 とても一致していた」が50%（6名）、「2 まあまあ一致していた」が33%（4名）、「3 どちらでもない」が17%（2名）だった。

「どちらでもない」と回答したのは、C児担当の歯科衛生士である。デンタルサポートシートを使用した当日は、C児の機嫌が悪く、不適切な行動が多く見られた。サポートシートに記載していた以外の行動が見られたためである。

Q 12 「デンタルサポートシート」はズバリ100点満点中、何点でしょう。

結果は、「100点」が45%（5名）、「90点」が9%（1名）、「80点」が36%（4名）、「70点」が9%（1名）、無回答が1名だった。

平均は、89点であった。「80点」「70点」と回答した5名は、Q11の設定問において、患者の実態と「まあまあ一致していた」「どちらでもない」と回答していた。点数の高さは、項目に書かれた内容と患者の実態とが一致したかどうかで、付けられていると考えられる。

***アンケート全般についてのご意見をお聞かせ下さい。**

作成評価Iのサポートブックと比べての感想や、改善や工夫が望まれる点についての意見などが書かれていた。

4. 考察

作成評価Iの結果を基に、事例対象4名において歯科診療用サポートブック「デンタルサポートシート」を再作成し、歯科診療時に、歯科医療機関で使用し、診療に有効であったかどうかを検討した。

作成評価Iでは、歯科診療用のサポートブックを、実際に歯科医療機関で見ることができる時間は3分間であり、見てすぐに理解できる記述の仕方や、診療時にすぐに役に立つ項目などが条件としてあげられた。

デンタルサポートシートの項目数については、歯科医師、歯科衛生士の約7割によって選定されていた項目を取り上げて、構成を行った。3分間で見て理解できる情報量を目指したが、12名中9名は、「5分間」かかったと回答した。「7分間」と回答した歯科衛生士は、担当の自閉症児と初めて接しており、「1～2分間」と回答した歯科衛生士2名は、これまで何度か担当の自閉症児の診療に対応した経験があった。かわりを持った回数、見て理解することができる時間に影響していると考えられる。今回、12名の対象者全員が、診察時や診察前に見ることができると回答しており、項目数については、26項目が妥当であると言える。

記述の仕方については、単語で言い切ったり、できる、できない、わかる、わからないがはっきり書かれた文章にしたりなどの工夫を行った。D児担当の歯科医師、歯科衛生士は「まあまあわかりやすい」と回答した。初診であったことから、D児とかわかった時間が少ないため、

自閉症児の歯科診療における支援

実際の本児の様子とデンタルサポートシートの項目記述とが結びついていないと予想される。また、患者の実態と一致していたかどうかについては、「どちらでもない」と回答した。デンタルサポートシートを使用した当日は、事例対象児の機嫌が悪く、不適切な行動が多く見られ、記載した項目以外の行動が見られたためである。歯科診療のような大きなストレスを感じることで、デンタルサポートシートに記述した様子とは、異なる姿が見られることも考えられる。不適切な行動や、その後の診療に役に立つと思われたことは、デンタルサポートシートに追加や訂正を行うなどの工夫することが望ましいと思われる。

平均は、89点であった。「80点」「70点」と回答した5名は、Q11の設問において、患者の実態と「まあまあ一致していた」「どちらでもない」と回答していた。点数の高さは、項目に書かれた内容と患者の実態とが一致したかどうかで、付けられていると考えられるが、診療前に見ることで歯科診療をスムーズに行うことができるということが示されたと言えるのではないと思われる。デンタルサポートシートを作成、使用することで、自閉症児の歯科診療が即、すべてスムーズに進むとは考えられないが、歯科診療を進める上で、自閉症の障害を理解し、コミュニケーションがとれるきっかけになることを願いたい。

全体考察

本研究では、歯科医療機関において、自閉症児の歯科診療時に役に立つサポートブックを作成することをねらいとした。サポートブックの内容や記述の仕方、情報量などを、実際に医療現場で使えるかどうか、役に立つかどうかなどについて、歯科医療側から検討した。

作成評価Ⅰのアンケート対象者の約67%は、自閉症という障害を知っており、診察した経験があると回答していた。約3割の歯科医師、歯科衛生士は、診察した経験がないと回答している。このような対象者に選ばれた項目は、一般個人歯科医院の歯科医師や歯科衛生士の実態に近いのではないと思われる。

記述回答の中には、サポートブックの記述方法などについて、改善や工夫を望む声あげられており、期待が込められていることを実感することができた。特に、これまで自閉症の診察や治療を経験し、負担に感じている歯科医師や歯科衛生士においては、診療前に、子どもの実態を知っておきたいという思いがあると予想される。また、実際に歯科医療機関で目を通すことができると思われる時間は3分間でその間に読んで理解できる内容であること、記述の仕方は単語やはっきりとした文章（できる、できない、わかる、わからないがはっきり書かれている）であること、項目については自閉症の障害の特性や対処の仕方など、診療時にすぐに役に立つことなど

が条件であるということが明らかとなった。

項目全体については、保護者から直接聞かなければわからない項目が選択されたと考えられる。プロフィール項目では、歯科医師によって、医学に関する情報が多く選定されていた。障害についての項目では、パニックの対応の仕方、こだわりなど、自閉症の特徴が表現されている項目が選定されていた。コミュニケーションの項目では、本人とのかかわりを持つ中で得る情報が選定されていた。歯科関係の項目では、これまでの通院や診察時の様子などが選定されていた。歯科医院の対応について、保護者は、待ち時間や治療の説明の仕方などに対して配慮を望んでいるが、その内容に関する項目はあまり選定されておらず、歯科医療を受ける側が知ってほしいと望む情報と、歯科医療側が知っておきたいと感じている情報は、異なっていることが分かった。

事例を行う中で、保護者と教員が、情報交換を密にすることの大切さを感じた。保護者は学校から提供される、歯科医療に関する情報を頼りにしており、学校が提供してくれることを強く望んでいる。しかし、学校側は、歯科検診の結果を保護者に通知するにとどまり、歯科に関する指導や歯科医院への通院などの歯科医療については、家庭が考えてすべきことであるという意識があると思われる。多くの障害児の保護者が協力を望んでいる現実を知り、学校が歯科診療のきっかけ作りに積極的に働きかけるべきではないかと考える。その一つとして、保護者と学校が情報交換をしながら、デンタルサポートシートの作成を行うことを、ぜひ提案したい。

自閉症児がかかわる医療機関として、小児科、耳鼻科、眼科などがあり、それぞれの医師によって必要としている情報は異なると思われる。今後は、小児科用サポートシート、耳鼻科用サポートシート、眼科用サポートシートなどの作成を試みたいと思う。

謝辞

本研究におきまして、富山県内の歯科医院に勤務する歯科医師、歯科衛生士のみなさま、T養護学校の4名の児童と保護者、担任のみなさまに、多大な協力をいただきました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

注

拘束ネット：診察台やベットに患者を寝かせたときに、身体や手足が動かないように、身体全体を覆い固定するもの

文 献

- 猪狩和子, 斉藤徹, 斉藤峻, 神山紀久男「宮城県における障害者歯科医療の実態」障害児歯科, 第15号, 157-169頁, 1994年.
- 石黒光「自閉症者の理解と歯科治療での対応」障害者歯科, 第25号, 63-69頁, 2004年.
- 門眞一郎, 高原牧「自閉症の人のための診療マニュアルー歯科編ー(案)」京都歯科サービスセンター, 2003年.
- 坂井聡「自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア」エンパワメント研究所, 2002年.
- 渋井尚武, 荒木良子, 原龍馬, 今村泰三, 醍醐毅, 荒井文紀「一般歯科診療所の障害患者受け入れ判定基準についてーアンケート調査からの検討ー」障害者歯科, 第18号, 15-21頁, 1997年.
- 平澤紀子, 藤原義博, 山本淳一, 佐田東彰, 織田智志「教育・福祉現場における積極的行動支援の確実な成果の実現に関する検討」行動分析学研究, 第18巻, 2号, 108-119頁, 2003年.
- 武蔵博文「障害児のためのサポートブック支援教室の試み」富山大学教育学部紀要, 第59号, 21-32頁, 2005年.
- 茂木俊彦「障害を知る本 自閉症の子どもたち」大月書店, 1998年.
- 山田教子, 武蔵博文「富山県における障害児の歯科医療に関する実態調査」富山大学教育実践総合センター紀要, 第5号, 17-32頁, 2004年.

参考資料

- ホームページ「みずのおうち」,
 ホームページ「自閉症ノブの世界」,
 「問診表」A小児歯科医院, S小児歯科医院, T歯科医院, T総合病院
 「歯磨き指導診査用紙」「予診録」富山県歯科保健医療総合センター

資料 1 作成評価 I 「サポートブック作成アンケート」調査用紙 (1 枚目)

歯科診療用サポートブック「歯医者さんへ行こう」作成のためのアンケート

このアンケートは、歯科診療に役に立つサポートブックを作成することを目的としています。私は、自閉症の障害特性や歯科診療時に必要な情報を載せた歯科診療用サポートブックを作成、使用することで、患者(自閉症の子どもたち)と診療者(歯科医師・歯科衛生士)のコミュニケーションがとりやすくなり、歯科受診・歯科診療が少しでもスムーズに進むのではないかと考えています。この結果は、サポートブックの内容や記述の仕方などを見直し作成し直すために、ご参考させていただきたいと思っています。

アンケートの集計は統計的に処理しますので、みなさまにご迷惑をおかけすることは決してございません。お考えをありのままにお答え下さい。

趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力下さいますようお願い申し上げます。

富山大学大学院 教育学研究科 2年 山田 教子
指導教官 富山大学教育学部 武蔵 博文助教授

職種 (歯科医師 ・ 歯科衛生士)
職歴 () 年 * そのうち障害児歯科に携わっておられた経験は何年ありますか? () 年

* Q1～Q8の質問は、はい・いいえのどちらかを○で囲み、理由や内容を簡単に書き下さい。

- Q1 自閉症という障害をご存じですか? はい ・ いいえ
- Q2 自閉症の子どもを診察、診療したことがありますか? はい ・ いいえ
- Q3 自閉症の子どもを診察、診療することは負担に感じますか? はい ・ いいえ
* はいの方はその理由を簡単に書き下さい。
- Q4 サポートブックの存在をご存じですか? はい ・ いいえ
* はいの方はどこでお知りになりましたか?
- Q5 これまでに、サポートブックを見たことがありますか? はい ・ いいえ
* はいの方はどこで見られましたか?
- Q6 これまでに、実際にサポートブックを使ったことがありますか? はい ・ いいえ
* はいの方はどこで使われましたか?

「サポートブック作成アンケート」調査用紙 (2 枚目)

Q7 診察時にサポートブックを見ることはできると思いますか? はい ・ いいえ
* いいえの方はその理由を簡単に書き下さい。

Q8 診察前にサポートブックを見ることはできると思いますか? はい ・ いいえ
* いいえの方はその理由を簡単に書き下さい。

* 以下の質問は、1～5段階で、一番近いと思われるものに○をつけてください。

- Q9 サポートブックは診療に役立ちますか? とても役に立つ 1 2 3 4 5 必要ない
- Q10 内容がわかりやすいか? わかりやすい 1 2 3 4 5 わかりにくい
- Q11 読みやすさはどうでしたか? 読みやすい 1 2 3 4 5 読みにくい
- Q12 文字の大きさはどうでしたか? ちょうどよい 1 2 3 4 5 読みにくい
* 読みにくいの方はどちらかをお選び下さい。
(大きすぎる ・ 小さすぎる)
- Q13 情報量(ページ数)はどうか? ちょうどよい 1 2 3 4 5 妥当ではない
* 妥当ではないの方はどちらかをお選び下さい。
(多すぎる ・ 少なすぎる)

* 以下の項目は、歯科診療用サポートブック「歯医者さんへ行こう」をご覧になりながら、お答えください。

Q14 プロフィールについて、役に立つと感じられた項目を5つ選び、お書き下さい。

- | | | | |
|--------------------|----------------|---------------|--------------|
| ① 学校名・学年 | ② 呼び名・愛称 | ③ 生年月日・年齢・血液型 | ④ 住所・同級生の連絡先 |
| ⑤ 歯科までの通院時間・利用交通機関 | ⑥ サポートブックの説明 | ⑦ 障害名 | ⑩ 障害手帳の種類 |
| ⑧ 服薬中の薬名 | ⑨ かかりつけの病院・主治医 | | |

Q15 障害について、役に立つと感じられた項目を3つ選び、お書き下さい。

- | | | |
|--------------|----------------|---------------------|
| ① 本人の障害特性の説明 | ② 好きなこと・好きな物 | ③ 嫌いなこと・嫌いな物 |
| ④ 嫌・こたわりについて | ⑤ 辛く感じることにについて | ⑥ ハニキやかしもものときの対応の仕方 |

資料3 サポートブック

歯科診療用サポートB00A
歯医者さんへ行こう

実際は、写真画像が添付されている

(〇〇〇〇…ふりがな)
A児
 小学部 年

富山県立七尾高等学校分校

名前 A (〇〇〇〇…ふりがな)
 愛称 〇〇ちゃん

生年月日 平成〇〇年〇月〇日
 年齢 満〇歳
 血液型 O型

住所 〇〇市〇〇 〇〇-〇
 電話 070-〇〇〇-〇〇〇〇
 緊急連絡先 ① お母さん()の携帯 090-
 ② お父さん()の携帯 090-

A歯科医院までの通院時間
 ・自宅からは、約〇キロで、〇分ほどかかります。
 お母さんの自家用車で通院します。

-1-

歯科診療用サポートB00Aって?
 子どもたちとお医者さん、歯科衛生士さんのコミュニケーションがとりやすくなり、受診や治療が少しでもスムーズになっただけならいいな、というのを目的として作りました。

<プロフィール>

障害名 知的障害
 (自閉的傾向あり、と診断)

服薬中の薬 特になし

かかりつけの病院・主治医
 〇〇小児科医院
 〇〇市〇〇町 〇〇-〇 076-〇〇
 〇〇耳鼻科医院(中耳炎のため通院治療中)
 〇〇市〇〇町 〇〇-〇 076-〇〇

療育手帳 B

-2-

<Aちゃんの特徴>

- よく動く、素早く動く、高いところや興味のあるところ(神棚・冷蔵庫など)が好きで走って行く。
- 部屋や建物から出ていってしまっこともある。目を離さないでください!

好きなこと・好きな物・興味のある物

- マジックやペンなど(書きたい!)
- ピデオ(見たい! 巻きたい! 巻き直しや早送りをしたい!)
- 窓のさん、机のはしっこなど(上りたい!)
- 神棚、冷蔵庫の中(置たくて置たくてたまらない!)
- 数字やABC、物語やCM(口ずさみたい!)

嫌いなこと・嫌いな物

- 初めてのこと(見通しが持てない!)
- 待つこと(じっとしてられない!)

顔 こどわい

- 好きなことや好きな物を、満足するまで触らないと嫌がることがあります。時間をタイマーで決めたり、次にすることを文字で示したりして、切り上げて下さい。

-3-

辛く感じることに
 初めてのことが苦手。何をやるのか、見通しが持てないと不安でいっぱいになります。

↓

<Aちゃんの行動>

- 「いいない。」と書いて拒否を示します。
- その場から逃げ出す。
- 無理やり座らせると泣き出す。

↓

<そんなことにならぬように…>

- 診察台に座る前に、今日の診療スケジュールを示し、診察、治療をはじめください。
 *机の上に座る、口を開ける、けずるタペーン、お水シヤ…巻いたりなど、診察の流れを書いて見せて下さい。10ぐらいの見通しが持てます。

<ハンニクやもしものときには…>

- 辛かった気持ちを認めてあげてください。「いやだったね。つらかったね。がまんできたね。」と、本人の気持ちを書き、ししばらく見守ってください。

-4-

<コミュニケーションについて>

言葉でのやりとり → できます

- 短い言葉で丁寧に話してください。初めて話する人はやりとりが少し難しいこともあります。

してはあげないことへの伝え方

- した時はすぐに手をとり、やめさせます。「がまんだね。今は〇〇しようね。」と今することを話します。文字で書いて示すと、より伝わりやすくなります。
- 院内では、触りたくなるもの(ペン、ピデオなど)を見えないようにしておいてください。

絵や写真、文字の理解 → できます

- 文字が一歩理解できます。短い言葉で丁寧に書いて下さい。

順番やスケジュールの理解 → 10ぐらいの見通しが持てます

- 診察の流れを書き、書いて見せて下さい。
- 上から下に向かって書き、終わったことは線で消して行きます。

-5-

YES、NOの表現 → できます

- YESのときは、「ください。」と置きます。
- NOのときは、「いいない。」と拒否を示したり、その場を逃げ出したりします。

自己選択 → できます

- 好きな物や興味のある物を選ぶことができます。

注意を促すとき

- 診察や治療で使用する器具や道具を目の前で見せて下さい。

ほめられることについて

- 学校では「Aちゃんえんえんかかったね。上手だね。」と言ったり拍手したりしています。

ごほうびについて

- 終わった後「マジック」「ピデオ」などの見直しをもつと、がんばります。診察、治療が終わったら「学校行くね。」の約束をしています。

-6-

<歯科関係について>

学校での歯科健診の様子

- 先生と手をつないで、泣きながら保護者に入り、健診用の椅子に座りました。
- 泣きながらも自分で口を開けました。健診中は、顔と口を後ろから軽く押さえました。(介助は二人)
- 約30秒間、健診を受けることができました。

今までの通院の様子

- 文字で歯医者さんへ行くことを何度も伝えて行きます。緊張した様子で落ち着きません。

待ち合い座りの様子

- ソファへの好きな場所に座ると落ち着いて座れますが、その場所が空いてなかったりする場合、落ち着かずうろろし、不機嫌になります。

診察時の様子

- 歯科衛生士さんとお母さんが身体を押さえて、診察や治療を受けています。

-7-

痛みについて → 弱いです

- ・ 痛い認識をしたことはずっと覚えていきます。

座っていることができる時間 → 短い(10分間)

- ・ 風通しが待てないときは不安で座っていることはできません。

口を開けることについて → 短い(5秒間)

- ・ 「お口の中見せてね。」と一言のぞくと、開けます。一人でするのは約5秒間です。

うがい → 難しいです

- ・ 口の中に水をためて置くことができません。飲んでしまったり、はき出してしまったりします。

顔に触れられることについて → 抵抗ない

- ・ どちらによされることも大好きです。

手を握られることについて → 苦手です

- ・ ぎゅっと強く握らないでください。びびります。

+

白衣・マスクが姿について → 抵抗ない

- ・ しかし、一度様な診察や治療を経験すると、次からは抵抗や拒否を示します。

治療の機械の音 → 少し気になる

他の患者の泣き声 → 大きな泣き声は苦手

薬品におい → 気になる、嗅ぎたい

時計の理解 → タイマーがわかる

終わりの理解 → できます

- ・ 「10回したら終わり」「タイマーの音が鳴ったら終わり」を約束し、終わったら何をするかわかっていると、スムーズに終わることが出来ます。

鏡に映る姿の理解について → 理解している

+

歯ブラシへの抵抗感について → 抵抗あり

- ・ 口の中へ入れることが嫌いです。

介助態勢について → 抵抗あり

- ・ 慣れた人と慣れたやり方であれば置くことができず、約5分間できます。

<障害について>
自閉症って？

3つの大きな特徴があります。

1. 人との関係で、視線を合わせようとしてない、表情がない、身振りの表現がない。みんなと行動をともにして、感情を共有することがない。
2. 言葉の発達が遅れていて、人との会話のやりとりができない。話し言葉がほとんどなかったり、おうむ返しやひとりごと、あるいは感情がなく、一本調子だったり、同じ言葉を繰り返したりする。
3. 活動や興味の種類が極端に狭く、固まっている。積み木を一列に並べるなど、同じことを繰り返す。まわりの様子が少しでも違うのを極端に嫌う。

-10-

資料4 サポートシート

(表)



デンタルサポートシート

作成日: H16.11月 作成者: K児母・山田(〇〇歯科大学)

プロフィール

名前: K児(ふりがな) 愛称: Aちゃん

実際はここに顔写真が入る

生年月日: HO. O. O生まれ(満8歳) 血液型: O型
 障害名: 知的障害、自閉的傾向
 服薬中の薬: ツムラ甘麦大そう湯エキス
 かかりつけの病院・主治医
 〇〇小児科医院 〇〇市〇〇 070-000-0000
 〇〇耳鼻科医院 〇〇市〇〇 070-000-0000

<障害について> 自閉症? 3つの大きな特徴があります。

1. 対人相互関係の技能の質的な障害
(周りの人と協調したり共感したりすることがちよっと苦手です。)
2. 言葉の発達の違い(初めてや慣れていない人との会話が苦手です。)
3. こだわりや興味の偏り(好きなことを何回も繰り返したりします。)

Aちゃんの特徴

- ・ 素早くよく動く。高いところや興味のあるところ(神棚・冷蔵庫・からくり時計・TV・ビデオデッキ)が好きで走って行く。
- ・ 部屋や建物から出て行ってしまふこともある。
目を見せないでください。

癖、こだわり

- ・ 数字、アルファベットなど、文字に関心が高い。(時計や雑誌の背表紙など)
- ・ TVやビデオのリモコン操作が大好き。
とことん見たり触ったりしないと、気が済みません。

辛く感じること 子どもの泣き声や治療器具の音(キーン)が苦手

↓

- ・ 耳を押さえて泣き出したり、部屋の隅に隠れたりする。
- ・ 「いない!」(嫌、という意味)と言って拒否する。

<そんなことにならないように…>

- ・ 予約時間に合わせて行きます。出来るだけ間をおかず、診察を始めてください。待っている時間の音や雰囲気は苦手です。

<パニックやもしものときには…>

- ・ 落ち着くまで、見守ってください。
- ・ 気持ちを切り替えることができるように、順番立てて、言葉をかけます。
 - ①診察台へごろりんしようね。
 - ②口を開けて、見てもらおうね。見るだけだよ。
 - ③早くお家へ帰ろうね。終わったらジュース飲もうね。
- など、診察後の楽しみなことへ結び付けると、見通しを持ちます。

(裏)

コミュニケーションについて

言葉でのやりとり → できます

- ・ 嫌なことは「いない。」と拒否します。

してはいけないことの伝え方 → 「だめ!」とってください

- ・ 目を見て、はっきり「だめ!」とってください。それでも止めないときは、手首をつかみ、制止してください。
- ・ いけないことは最初の時に、しっかりダメだと伝えます。例外は受け入れられません。

絵や写真の理解 → できます(文字による提示 OK)

- ・ 2語文で示してください。(例: いすにすわる、口を開ける)

順番やスケジュールの理解 → 10ぐらいの見通しが持てる

- ・ 診察の流れを文字で順番に書き、見せてください。
- ・ 上から下に順に書き、終わったことは線で消してください。
- ・ 3つまでなら、①~、②~、③~と口頭でもOKです。

注意を促すとき

- ・ 診察、治療器具や道具を目の前で見せてください。

ほめられることについて

- ・ 学校では「Aちゃん、えらかったね。上手だね。」と言ったり、拍手したりしています。

歯科関係について

今までの通院の様子 → 抵抗あり

- ・ 待つことが苦手です。予約時間を守ってください。

診察時の様子 → 抵抗あり(フッ素時なし)

うがい → できる(「ブクブク、ベツ、するよ。」でOK)

座っていることができる時間 → 短い(10分間弱)

口を開けること → 短い(3秒間)

- ・ 痛くない(虫歯治療ではない)ことがわかれば開けます。

顔に触られること → 抵抗ない

手を握られること → 少し苦手(そっと握ってください)

歯ブラシへの抵抗感 → 抵抗なし(でも、かんでしまう)

介助磨き → 抵抗なし

- ・ お口開けてね。」とはっきり言ってください。

本日の診察、どうぞよろしく
お願いします。(A)

- 57 -

NII-Electronic Library Service

